

貴重書展示 カント「三批判書」が揃う！

— 『判断力批判』 『純粹理性批判』 『実践理性批判』 —

西洋哲学の最高峰カント

専修大学文学部教授 貫 成人



哲学は紀元前4世紀頃、古代ギリシアに生まれました。以来、2500年以上、続いてきた哲学の最高峰、それが、イマヌエル・カントです。

カントによれば、人間として考えなければならないこと、すなわち哲学の問いは三つあります。第一は、「わたしは何を知りうるのか」という問いで、これに答えたのが『純粹理性批判』です。

第二は、「わたしはなにをなすべきか」というもので、この問題を論じたのが『実践理性批判』でした。第三は、「わたしは何を望みうるのか」というもので、『判断力批判』の主題です。

こうした人類にとっての宝である3冊の、貴重な初版本が専修大学図書館に揃ったことは、哲学関係者だけでなく、全学の学生や院生、職員、教員にとって悦ばしいことです。カントの主要著作であるこの3冊は、人類の知、だれもが守るべき規範、そして、自然の秩序という、だれにとっても大切な事柄に関する徹底的な思索の結晶だからです。

これを機会に、みなさんがカント、また、哲学というものに関心を向けてくださることを祈ります。

イマヌエル・カント

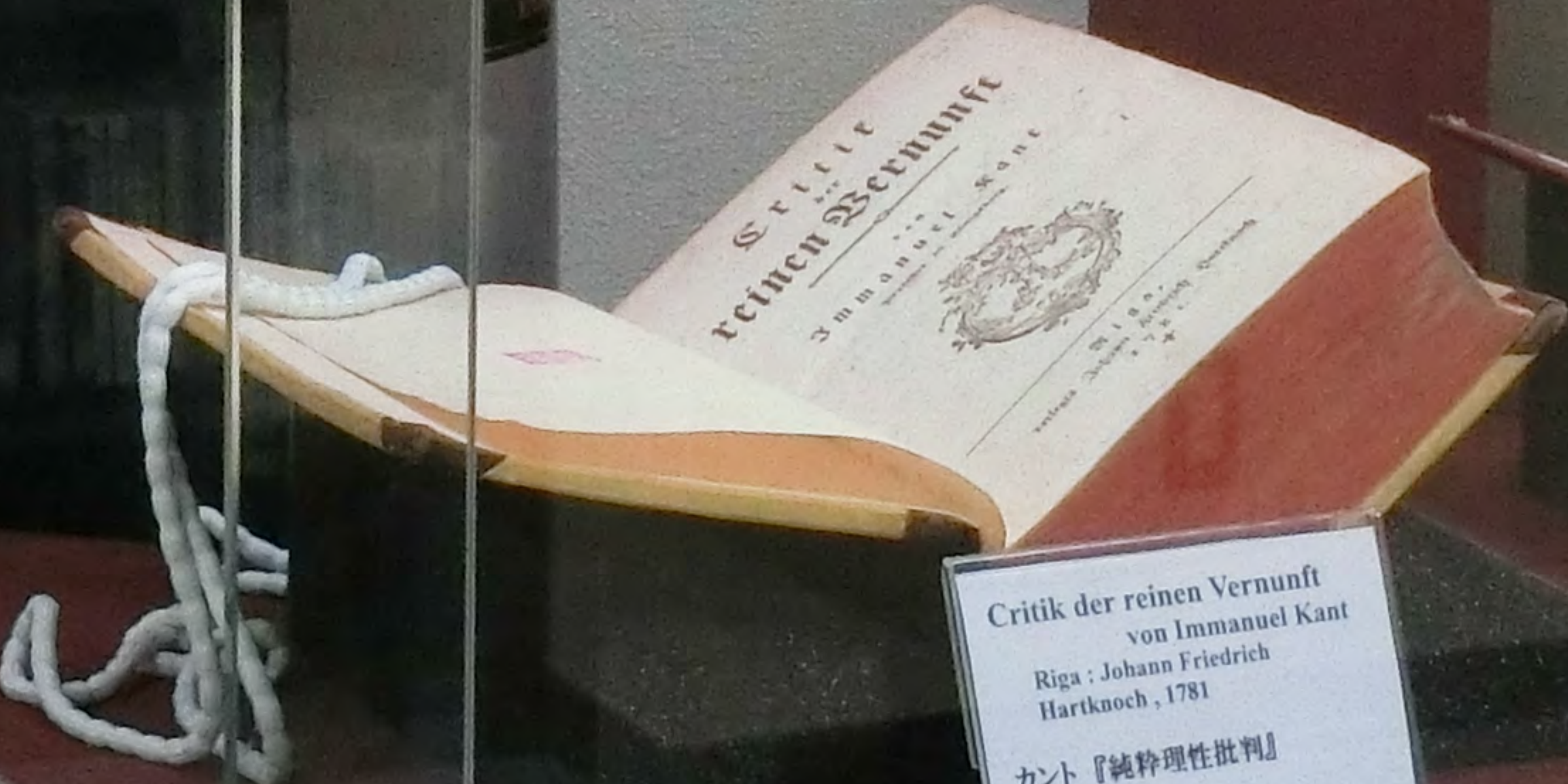
Immanuel Kant 1724.4.22 - 1804.2.12



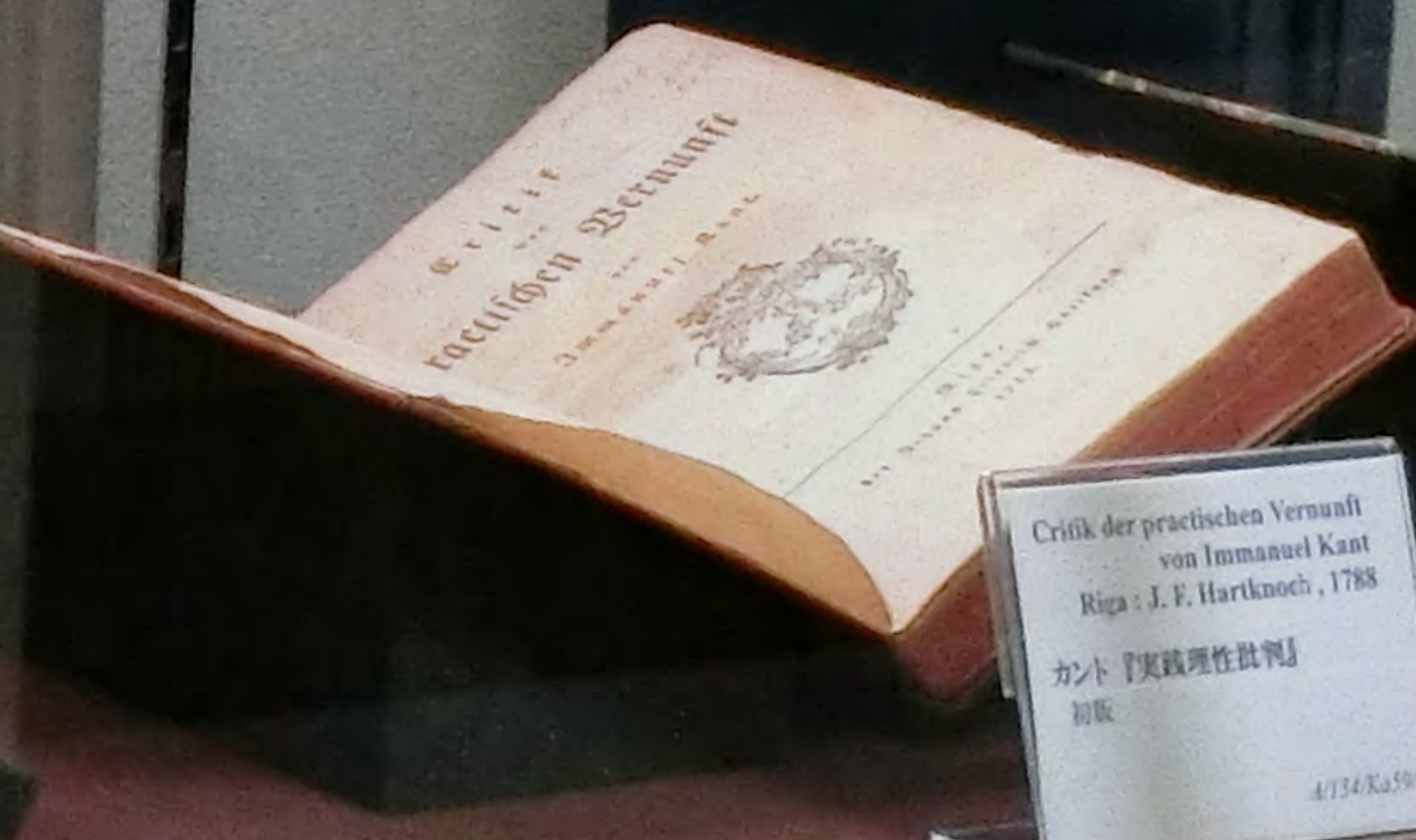
カントは69歳の年まで生きたが、ゲーテヒスベルグから出たことは一度もない。この前、東部の水に閉ざられて、人間の知性の限界について思案する「冬を待た」た。研究に対する不屈の精神によって、彼は真実の知識を獲得したという。

『純粹理性批判』と題された人間の知性の性質に関する論文は、しばらくの間、知られていなかったが、やがてそこに集められた数々の貴重な思想が見られると、一人センセーションを巻き起こすことになった。以後、文字であれも有学であれ、ほぼ全ての作品が、この著作のもたらした影響の影響下に生まれることになる。

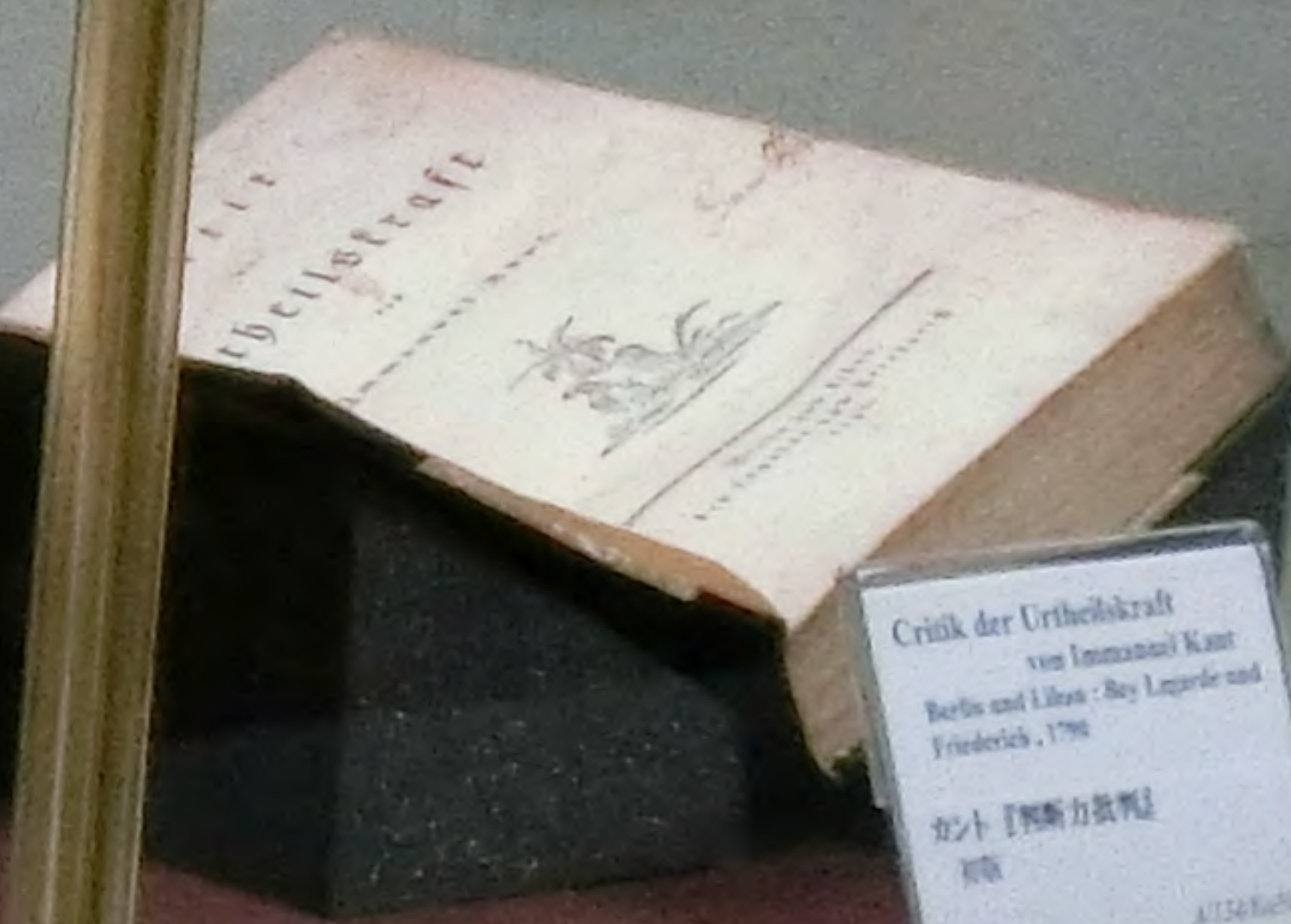
この人間の知性に開く論文に続いて、道徳に関する『実践理性批判』、美の性質をテーマにした『判断力批判』がある。知性の法則、自然の規律、自然や芸術の別の規範を待たされたこれらの三つの論文の基盤にあるのは、同じ一つの理論である。



Kritik der reinen Vernunft von Immanuel Kant Riga: Johann Friedrich Hartknoch, 1781
カント『純粹理性批判』初版 A/134/Ka59/



Kritik der praktischen Vernunft von Immanuel Kant Riga: J. F. Hartknoch, 1788
カント『実践理性批判』初版 A/134/Ka59/



Kritik der Urteilskraft von Immanuel Kant Berlin und Lieben: Bey Lange und Friedrich, 1790
カント『判断力批判』初版 A/134/Ka59/